

春の交通安全運動各地で

春の交通安全運動が6日始まり、各地で様々なキャンペーンが行われた。15日までの期間中、県警は飲酒運転の根絶や子どもと高齢者の自転車事故の防止などを掲げ、取り締まりを強化する。

飲酒運転根絶 自転車事故防止

■県警の出発式

さいたま市西区では、県警交通機動隊と県警高速隊の隊員計34人が出席して出発式が行われた。遊馬宏志交通部長は「多発している事故に歯止めをかけなければならぬ」と述べた。白バイとパトカー計28台がパトロールに出発。行楽シーズンを前に、高速道路を利用する家族連れなどに安全運転を呼びかけた。

■手作りお守り

県立皆野高の生徒は、皆野町の皆野寄居有料道路料金所で、交通安全の願いを込めて手作りしたハート形のお守り約300個を運転手らに配った。生徒会長の太幡真夕さん(17)は「大

手作りのお守りをドライバーに手渡す皆野高の生徒(皆野町で)



切にします」と言われてうれしかったと笑顔だった。

■一日広報大使

川口署は、女子プロ野球「埼玉アストライア」の加藤優外野手(21)を、一日交通安全広報大使に任命した。JR川口駅で「事故を起さない、遭わないよう

に努めましょう」と呼びかけた。

■歌舞伎でPR

3月に交通死亡事故ゼロ2000日を記録した小鹿野署では、小鹿野町内の子供歌舞伎に所属する小中学生が交通安全をPRする歌舞伎を披露した。

■音楽隊が訴え

運動期間の開始に先立ち、越谷市のイオンレイク

タウンでは5日、越谷署や県警音楽隊のカラーガード隊などによる出発式が行われた。買い物客など200人以上が見守る中、音楽隊が演奏し、交通安全を訴えるチラシを配った。



県警交通企画課によると、県内の交通事故死者数は5日現在で50人(前年同期比13人増)、高齢者の死者数は29人(同7人増)とともに全国ワースト1位。亡くなった高齢者のうち、歩行中の17人が最も多く、横断歩道がない場所での横断や赤信号を無視して事故に遭った人もいるという。



サイドカーから笑顔で敬礼する加藤選手(川口市で)



交通安全を呼びかけた子供歌舞伎(小鹿野町で)

(第3種郵便物認可)